

新型コロナウイルスの正体と付き合い方

京都大学ウイルス・再生医科学研究所准教授

宮 沢 孝 幸
みやざわ たくゆき

- * 新興ウイルス感染症はどこから来るのか
- * 重要な予測ウイルス学という視点
- * 野生動物のウイルス探索に研究費は出ない
- * 新型コロナウイルスの起源と性質
- * 新型コロナウイルスの変異が遅い理由
- * 低予算で無理を強いられる大学の研究実態
- * ずっと昔から存在したコロナウイルス
- * 行き過ぎた自粛について
- * 人流と感染拡大は無関係
- * 新型コロナウイルスは弱毒化に向かっている



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

本日は、京都大学ウイルス・再生医科学研究所の宮沢先生においでいただきました。

先生は1964年にお生まれで、東京大学農学部獣医学科をご卒業されております。2005年に京都大学に移られて、2016年から現職でございます。何で専門獣医の方をお呼びしているのかなと思う方がいらっしやるかもしれません。でも、そもそもこういったウイルス感染のいちばん最先端にいるのが獣医関係の動物の感染ですね。人に感染するすべてのウイルスのものが動物から来ている。それから、経験上もやっぱり人間の感染というのは最後のところではなく、先生のご専門のほうが深いのではないかと思います。

現在、京都大学でウイルスの研究をされているわけですが、幾つかご著書もございまして、私が常々この2年間思っていますのは、自粛の行き過ぎによって健康被害が広がっておりますし、何が本当に危なくて何がいけないのかということをきちんと検証もしないで、ひたすら行動制限をしたり、人間との接触を抑えたりする、こういったことに先生のご著書でも少し警戒というか警告をされているのを拝見しまして、今日はお呼びしたわけでございます。「新型コロナウイルスの正体と付き合い方」ということで、テレビではこういった話は排除されてしまいますので、本当の話を今日はお聞きしたいと思っております。

それでは宮沢先生、よろしくお願いたしました。